

平成18年度 学校自己評価シート (埼玉県立上尾橋高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する
本年度の 重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、規律意識を高める。 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

番号	評価項目	年 度 当 初			最 終 評 価 (2月)		
		現 状	具体的 な 方 策	評 価 指 標	経 過 ・ 達 成 状 況 等	達 成 度	次 年 度 の 課 題 と 改 善 策
1	規律意識の向上 ○ 遅刻の防止 ○ あいさつの励行 ○ 清掃活動の徹底 ○ 部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規律の守れない生徒がいる。 ・ 基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が多い。そのため、身だしなみや遅刻、欠席等にルーズな面が多く見られ、改善の必要がある。 ・ 挨拶や清掃活動に積極的に関われない生徒、言葉遣いや振る舞いに適切さを欠く者がいる。 ・ 人間関係づくりの不得手な生徒がいる。 ・ 生徒の部活加入率が低く、部活動が停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻欠席等、各生徒の出席状況の変化を早期にとらえ、保護者と連携しながらタイムリーな指導を心掛ける。 ・ 身だしなみについて日常的に指導する。 ・ 教員からあいさつをはじめ、機会あるごとに積極的に生徒に声を掛ける。 ・ 清掃点検の結果を活用し、清掃のできる生徒の育成を図る。 ・ 顧問が1日1回は練習場所へ指導に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻欠席等の数を前年度より50%減らす。 ・ 身だしなみ等の違反者を0にする。 ・ 生徒全員が挨拶できる。 ・ 清掃点検表を全て○にする。 ・ 前年度より部活動への参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モジュール毎に遅刻防止週間(全校)を実施したが、遅刻率および欠席率は前年比増加となった。 ・ 身だしなみ等の違反者は0になっていないが、現在、再登校指導を受けるほど著しい服装頭髪違反の者はいない。 ・ 7割以上の生徒が進んで挨拶しようという意識(生徒アンケート回答)し、生徒と教員が気軽に挨拶が交わされる雰囲気を作られている。 ・ 清掃については、昨年度に比べ教室や廊下等を汚すことが少なくなった。 ・ 部活動加入者数は前年度より増加した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻常習者は早期に保護者を召還するなど、家庭との連携を強め、より効果的な遅刻防止の取組を導入する。 ・ 身だしなみ等の指導に関わる学年間の指導基準の統一や校門指導の回数増加により、指導の徹底を図る。 ・ 教員からの積極的な挨拶や声掛けを継続し、良好な人間関係づくりを進める。 ・ 入学時から環境美化の意識を喚起するため、特に1学年の清掃指導を重点的に行う。 ・ 部活動の「活動率」を高め、部活動の活性化を図る。
2	授業改善の取組 ○ 学習態度の確立 ○ 基礎学力の定着 ○ 学習能力の向上 ○ 評価方法・基準の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話など学習に必要ないものを使ってしまうたり、チャイム着席ができないなど、積極的に授業に参加できない生徒がいる。 ・ 小、中学校のつまずきで、基礎学力不足で理解度に差がある。 ・ 学力や学習意欲が不足したり、指示されたことのできない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度改善週間など、重点指導期間を活用し授業態度の向上を図る。 ・ 教員が早めに授業に行き、チャイム着席指導を行う。 ・ 少人数学級編成を活用し、学習態度の確立を図る。 ・ 職員研修会を実施し、モジュール制、評価方法の共通理解を図り、生徒を多面的に評価する。 ・ 教科会、研究授業を通して、教材研究や指導方法等の工夫改善を図り、生徒の基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度で注意される者を0にする。 ・ 生徒全員がチャイム着席できる。 ・ 各学期で成績優良者2割以上を確保する。また、欠点保有者を前年度より減らす。 ・ 授業に対する満足度を前年度(50%)より向上させる。 ・ 学習に意欲的に取り組む生徒の割合を前年度(60%)より向上させる。 ・ 教科で年1回以上研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度で注意される生徒はいるが、全体的には年度当初に比べ授業態度の改善がみられる。 ・ 学年の巡回指導により、廊下等を徘徊する生徒はなくなり、ほぼチャイムで教室には入れるようになってきた。 ・ 成績優良者は15%程度で前年度と同程度にとどまった。また、成績不振者を減らすことはできなかった。 ・ 約7割の生徒が中学校と比べて授業がよくわかると感じている(生徒アンケート回答)。 ・ 生徒の授業満足度は約1割であったが、約5割の生徒は、橋高校の先生は授業をわかりやすくしたり興味関心を高める工夫をしている、と感じている(生徒アンケート回答)。 ・ 学習に意欲的に取り組む割合は、前年度と同様約6割であった(生徒アンケート)。 ・ 研究授業の実施は、半数の教科にとどまった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部の企画立案体制を強化し、学年と連携して授業態度の改善に取り組み、生徒の意識を喚起する。 ・ 前年に引き続き、巡回指導やチャイム着席指導を継続する。 ・ 習熟度別授業や学習指導の工夫改善により、基礎学力の育成を図る。 ・ 生徒の学習意欲を引き出す成績評価の方法や成績不振者の欠点解消に向けた学習指導のあり方について検討する。 ・ 授業改善に向けた教科別研修会(研究授業)の実施、中学校の授業を参観するなど、わかる授業、満足度を高める教科指導の工夫改善を図る。
3	夢を実現させる進路指導の推進 ○ 進路決定率の維持 ○ 進路相談・個別指導の充実 ○ 資格取得の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導に沿って活動した生徒は100%が決定するが、学校の指導に乗らない生徒もいる。 ・ 家庭の事情等で希望の進路に進めない生徒もいる。 ・ 個別指導の時間確保や様々な情報の共有化が困難な状況にある。 ・ 資格取得に対する意欲(自信)がやや不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分野別説明会等進路行事を計画的に実施し、生徒の進路意識の高揚を図り、進路希望の実現に努める。 ・ 「進路の手引き」等を通して、生徒・HR担任への進路情報・資料の提供に努める。 ・ LHR、総合学習に効果的に進路指導を位置づける。 ・ 就職支援アドバイザーを活用し、面接指導等を充実させる。 ・ 補習や生徒への個別指導を通して、進路希望の実現に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 100%の進路決定率を維持する。 ・ 進路に関する講演会・研修会等の機会を増やす。 ・ 職場見学等、啓発的経験を得させる機会を増やす。 ・ 基礎的な学習の機会を増やす。 ・ 資格取得者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路指導部と担任との連絡が密にでき、生徒との進路相談も充実したが、進路決定率100%は維持できなかった。 ・ 進路別説明会や講演会、職場見学会を実施し、生徒が自らの進路を考えるきっかけとなった。 ・ 総合的な学習の時間に、基礎学習や小論文に取り組んだ。 ・ 進学希望者向けの進路補習や資格取得に向けた補習を実施した。 ・ 埼玉県高校生専門資格等取得表彰の受賞者が前年より増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次から、欠席や遅刻が就職選考の大きなマイナス要因となることを意識させ、1年次から基本的な生活習慣を確立させ、進路決定率の上昇を図る。 ・ 総合学習、面談、学年集会、進路講演会等、様々な機会を活用して生徒の進路意識の育成を進め、生徒の進路実現をサポートしていく。 ・ 3年間を見通した継続的な進路補習に取り組み、進路希望の実現を図る。
4	開かれた学校づくりの推進 ○ 地域との連携 ○ 評価懇話会の活用 ○ 授業公開の工夫 ○ 学校施設の開放	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTAとの校外生徒指導が図られている。また、近隣中学校と生徒情報交換を実施しているが、生徒募集面での十分な効果につながっていない。 ・ 学校評議員兼教育懇話会を実施している。 ・ 年2回の授業公開にもかかわらず、保護者の参加が少ない。 ・ 施設利用希望者に対し開放している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校教員との情報交換により、中学校側の要望を適切に把握する。 ・ PTA総会時に授業見学会を行い、保護者の参加者を増やす。また、面談中や公開週間中の授業公開への参加を働きかける。 ・ 学校通信、HP等を活用し、保護者や地域に積極的に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開への参加者数を前年度より増やす。 ・ 学校説明会への参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P後総会時に授業公開を実施するなど、より多くの保護者が参加できるよう工夫した。 ・ 授業公開週間の保護者参加者および中学校教員対象の授業公開の教員参加者は前年比微増であった。 ・ 学校説明会の参加者は前年度に比べ約10%の増加となった。 ・ 交通安全指導、文化祭、強歩大会など各種行事にPTA後援会の協力を得た。 ・ HPの内容が充実し、学校だよりと共に保護者や地域に学校の様子を知らせることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開は、今後も保護者が出席しやすい実施方法や形態等をさらに検討する。 ・ PTA役員がより積極的に活動し、より多くの会員が幅広く参加できるように、PTA諸行事の運営方法を、引き続き検討する。 ・ 学校だより「橋」の内容や発行方法等を検討する。

達成度 A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%前後) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)